



## 2022年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社ビューティ花壇 上場取引所 東  
 コード番号 3041 URL <http://www.beauty-kadan.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 舩田正一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 三島まりこ (TEL) 096-370-0004  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年6月期第2四半期の連結業績(2021年7月1日~2021年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第2四半期	2,880	9.3	14	—	36	—	16	—
2021年6月期第2四半期	2,634	△7.7	△96	—	△18	—	△17	—

(注) 包括利益 2022年6月期第2四半期 17百万円(—%) 2021年6月期第2四半期 △16百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第2四半期	4.15	—
2021年6月期第2四半期	△4.35	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第2四半期	2,547	448	16.5
2021年6月期	2,444	430	16.5

(参考) 自己資本 2022年6月期第2四半期 419百万円 2021年6月期 402百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年6月期	—	0.00	—	—	—
2022年6月期(予想)	—	—	—	6.17	6.17

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年6月期の連結業績予想(2021年7月1日~2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	5,600	4.7	50	—	80	△20.5	50	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年6月期2Q	5,076,000株	2021年6月期	5,076,000株
② 期末自己株式数	2022年6月期2Q	1,026,552株	2021年6月期	1,026,552株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年6月期2Q	4,049,448株	2021年6月期2Q	4,049,448株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済状況等の様々な不確定要素によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	10
(追加情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2021年7月1日から2021年12月31日まで）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が続き、国内のワクチン接種率の上昇に伴い国内の新規感染者は一時減少傾向にあったものの、足元では変異株の出現等により大きく増加することが懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは2022年6月期を初年度とする新中期経営計画をスタートし、「既存事業の収益性改善と新規事業の創出により持続的な成長を実現し、企業価値向上・株価上昇へつなげる」ことを基本方針として「コア事業での売上拡大」「事業基盤強化」「新サービス開始・新規事業の拡大」「企業価値向上」を重点戦略に掲げ取り組んでおります。

この結果、各事業ともにこれまで続いていたコロナ禍の影響から総じて回復基調にあったことから、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、2,880,337千円(前年同期比9.4%増)、営業利益は、14,162千円(前年同期は96,692千円の損失)、経常利益は36,113千円(前年同期は18,474千円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は16,802千円(前年同期は17,601千円の損失)と改善しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、1,576,031千円(前年同期比6.2%増)となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、葬儀業の2021年7月から2021年11月までの取扱件数は増加、売上高は微増傾向で推移しており、コロナ禍初期の緊急事態宣言下において大きな影響を受けた前期と比較し、一部反動増があったものの、引き続き葬儀単価の低下に加えコロナ禍によって、参列者の減少や葬儀規模は縮小している状況です。

このように葬儀業全体では市場は今後も拡大傾向にある一方で、全国的に進む「家族葬」や「密葬」、「一日葬」等葬儀の小型化とともに単価の下落傾向に加え、引き続き新型コロナウイルスによる影響への対応が求められる状況となっております。

このような状況の中で、当事業では中期経営計画に基づく戦略の実行と葬儀の縮小傾向に対応した新たなサービス展開や新商品販売を実施してまいりました。その結果営業利益は157,230千円（前年同期比72.9%増）となりました。

#### (生花卸売事業)

生花卸売事業は、100%子会社であるマイ・サクセス株式会社において、これまで進めていた業務効率化に加え、当社グループとしての更なる競争力強化を図っておりますが、当期間におきましては、コロナ禍の影響等により販売数量は減少したものの販売単価が上昇し、売上高は952,846千円(前年同期比11.8%増)となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」（2021年12月）によると、2021年7月から2021年12月までの切花累計の取扱金額は30,400百万円（前年同期比6.7%増）、数量では406百万本(前年同期比2.2%増)と金額ベース、数量ベースともに増加し1本あたりの単価はやや上昇傾向で推移いたしました。

このような状況の中で、当事業では引き続き生花卸売事業（国内流通）と生花祭壇事業とのシナジー追求を図りながら抜本的な物流体系の改革へ向けた取り組みを実行しつつ、合わせてコロナ禍の影響を最小化するための対応を実施しましたが原価率高騰の影響により、営業利益は8,354千円（前年同期比63.7%減）となりました。

#### (ブライダル装花事業)

ブライダル装花事業の売上高は、新型コロナウイルス感染拡大により2020年3月以降結婚式の延期等により厳しい状況が続いておりましたが、徐々に回復基調で推移しはじめたことから142,640千円(前年同期比57.6%増)となりました。

少子化による結婚件数の減少と、「ナシ婚」ともいわれる婚姻届のみの結婚の増加等により、ブライダル業界の市場規模は縮小傾向にあるものの、晩婚化による結婚式単価の上昇や、ゲストハウス・ウェディングやレストラン・ウェディング等オリジナル挙式志向の高まりを背景に新規参入企業が増加するなど、これまでは大きな市場規模が保持されていましたが、昨今のコロナ禍の影響を受け、同市場規模は大幅な縮小が際立つ結果となりました。このような状況の中、同事業を請け負う連結子会社の株式会社One Flowerでは、東京・関西・九州エリアにおける

既存顧客・エリアへの深堀による受注増、同エリアでの新規取引先拡大、リテール部門の売上拡大に取り組んでまいりました。その結果、未だコロナ禍の影響は続くものの赤字幅は縮小し、営業損失は9,828千円(前年同期は44,234千円の損失)となりました。

(その他の事業)

その他の事業は、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画並びにコンサルタント業務、就労継続支援事業、農業を行っております。当第2四半期連結累計期間においては、主にシステム開発事業がコロナ禍の影響を受け低調に推移した一方で、就労継続支援事業等が好調に推移したことから、売上高は208,819千円(前年同期比0.5%増)となりました。利益面におきましては前述の就労継続支援事業の売上増に加え農業において赤字幅が縮小したことにより、営業損失は13,862千円(前年同期は25,903千円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ103,082千円増加し、2,547,961千円となりました。これは主に売掛金の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ85,126千円増加し、2,099,122千円となりました。これは主に、買掛金の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ17,955千円増加し、448,839千円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年6月期の通期の業績予想につきましては、2021年8月16日に公表いたしました連結業績予想から、現時点においては変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	976,362	913,320
売掛金	464,972	646,969
商品	19,248	15,501
仕掛品	3,438	2,648
原材料及び貯蔵品	39,623	54,312
その他	57,126	45,002
貸倒引当金	△2,378	△3,549
流動資産合計	1,558,394	1,674,205
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	652,785	655,578
減価償却累計額	△286,441	△298,944
建物及び構築物(純額)	366,344	356,633
車両運搬具	31,199	22,808
減価償却累計額	△29,201	△20,830
車両運搬具(純額)	1,997	1,977
工具、器具及び備品	149,584	146,744
減価償却累計額	△136,151	△133,979
工具、器具及び備品(純額)	13,433	12,764
土地	221,424	221,424
その他	15,921	15,983
減価償却累計額	△10,618	△11,087
その他(純額)	5,303	4,896
有形固定資産合計	608,503	597,696
無形固定資産		
のれん	10,011	9,177
その他	7,394	4,416
無形固定資産合計	17,405	13,594
投資その他の資産		
差入保証金	51,945	53,988
保険積立金	187,376	187,376
破産更生債権等	10,769	10,461
その他	21,252	21,099
貸倒引当金	△10,769	△10,461
投資その他の資産合計	260,574	262,465
固定資産合計	886,484	873,755
資産合計	2,444,878	2,547,961

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	145,019	310,251
短期借入金	350,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	198,840	181,747
1年内償還予定の社債	7,100	7,100
未払金	72,067	59,787
未払法人税等	17,431	16,566
未払費用	118,135	117,776
賞与引当金	452	10,866
資産除去債務	10,000	10,000
その他	90,333	102,701
流動負債合計	1,009,379	1,166,796
固定負債		
社債	7,400	3,850
長期借入金	906,521	835,100
リース債務	2,342	1,533
退職給付に係る負債	70,819	73,823
資産除去債務	17,532	18,017
固定負債合計	1,004,615	932,325
負債合計	2,013,995	2,099,122
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	142,056	142,056
利益剰余金	275,968	292,770
自己株式	△228,633	△228,633
株主資本合計	402,630	419,433
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△9	8
その他の包括利益累計額合計	△9	8
非支配株主持分	28,262	29,397
純資産合計	430,883	448,839
負債純資産合計	2,444,878	2,547,961

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)
売上高	2,634,016	2,880,337
売上原価	2,316,837	2,472,806
売上総利益	317,179	407,531
販売費及び一般管理費	413,871	393,369
営業利益又は営業損失(△)	△96,692	14,162
営業外収益		
受取利息及び配当金	18	14
受取賃貸料	524	513
補助金収入	78,813	22,430
為替差益	2,351	-
その他	2,952	5,724
営業外収益合計	84,659	28,683
営業外費用		
支払利息	5,685	5,145
為替差損	-	714
その他	756	872
営業外費用合計	6,441	6,732
経常利益又は経常損失(△)	△18,474	36,113
特別損失		
固定資産除売却損	1,000	70
リース解約損	-	1,749
特別損失合計	1,000	1,819
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△19,474	34,294
法人税、住民税及び事業税	5,722	17,526
法人税等還付税額	△8,898	△1,170
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	△3,176	16,356
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△16,298	17,937
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,302	1,135
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△17,601	16,802



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△16,298	17,937
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16	18
その他の包括利益合計	△16	18
四半期包括利益	△16,314	17,955
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△17,617	16,820
非支配株主に係る四半期包括利益	1,302	1,135

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△19,474	34,294
減価償却費	25,721	20,772
のれん償却額	834	834
リース解約損	-	1,749
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△6,479	863
賞与引当金の増減額(△は減少)	△717	10,414
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,773	3,004
受取利息及び受取配当金	△18	△14
受取賃貸料	△524	△513
補助金収入	△78,813	△22,430
支払利息	5,685	5,145
固定資産除売却損益(△は益)	1,000	70
売上債権の増減額(△は増加)	△177,266	△181,689
棚卸資産の増減額(△は増加)	△10,761	△10,151
仕入債務の増減額(△は減少)	128,790	165,232
その他	△41,214	16,303
小計	△170,464	43,883
利息及び配当金の受取額	18	14
賃貸料の受取額	524	513
補助金の受取額	78,813	22,430
利息の支払額	△5,569	△4,906
リース解約損の支払額	-	△1,749
法人税等の支払額	△9,077	△27,036
法人税等の還付額	16,138	11,984
営業活動によるキャッシュ・フロー	△89,615	45,136
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	157	87
有形及び無形固定資産の取得による支出	△5,659	△8,397
有形及び無形固定資産の売却による収入	1	-
保険積立金の払戻による収入	5,791	-
差入保証金の差入による支出	△1,254	△5,470
差入保証金の回収による収入	2,518	2,308
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,554	△11,472
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	-
長期借入れによる収入	267,000	-
長期借入金の返済による支出	△104,899	△88,514
社債の償還による支出	△3,550	△3,550
その他	△8,090	△4,641
財務活動によるキャッシュ・フロー	250,460	△96,705
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	162,398	△63,041
現金及び現金同等物の期首残高	778,921	976,362
現金及び現金同等物の四半期末残高	941,319	913,320

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自2020年7月1日至2020年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2021年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。「以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の期首残高へ与える影響はありません。また、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響もありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル装 花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,483,612	852,102	90,533	2,426,248	207,768	—	2,634,016
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,317	436,113	1,123	441,554	18,708	△460,263	—
計	1,487,930	1,288,215	91,657	2,867,803	226,476	△460,263	2,634,016
セグメント利益 又は損失(△)	90,943	22,997	△44,234	69,706	△25,903	△140,495	△96,692

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業、就労継続支援事業並びに農業であります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△140,495千円には、セグメント間取引消去27,077千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△167,572千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル装 花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,576,031	952,846	142,640	2,671,518	208,819	—	2,880,337
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,044	435,703	885	440,633	24,935	△465,569	—
計	1,580,075	1,388,550	143,526	3,112,151	233,755	△465,569	2,880,337
セグメント利益 又は損失(△)	157,230	8,354	△9,828	155,756	△13,862	△127,731	14,162

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業、就労継続支援事業並びに農業であります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△127,731千円には、セグメント間取引消去27,908千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△155,640千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積りにおいて、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載いたしました仮定に重要な変更はありません。